

武蔵野市健康福祉総合計画・地域共生社会推進会議委員名簿

委員数：13名、任期：令和3年4月1日～令和6年3月31日

氏名	職	選任区分
市川 一宏	ルーテル学院大学教授・学術顧問	学識経験者
渡邊 大輔	成蹊大学文学部教授	学識経験者
山井 理恵	明星大学人文学部教授	学識経験者
岩本 操	武蔵野大学人間科学部教授	学識経験者
北島 勉	杏林大学総合政策学部教授	学識経験者
久留 善武	一般社団法人シルバーサービス振興会事務局長	学識経験者
田原 順雄	一般社団法人武蔵野市医師会会長	保健医療関係者
星野 衛一郎	公益社団法人東京都武蔵野市歯科医師会会長	保健医療関係者
小安 邦彦	一般社団法人武蔵野市薬剤師会会長	保健医療関係者
稲住 成由美	武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会副会長	福祉関係者
植村 由紀彦	社会福祉法人武蔵野地域生活支援センターびーと 施設長	福祉関係者
千種 豊	社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会会長	福祉関係者
村雲 祐一	公募委員	公募による者



武蔵野市第3期健康福祉総合計画 施策の体系図

基本施策	重点的取組み	横断・共通する施策	報告事項
支え合いの気持ちをつむぐ	重点的取組み1 まちぐるみの支え合いを実現するための取組み	「健康長寿のまち武蔵野」の推進	
		地域福祉活動の推進や障害者団体やボランティア団体などの活動支援の充実	
誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進	重点的取組み1 まちぐるみの支え合いを実現するための取組み	「食」に関するセルフマネジメントとライフステージに応じた支援	
		シニア支え合いポイント制度の拡充	資料3-3:武蔵野市シニア支え合いポイント制度について
		心のバリアフリー事業の推進	
		摂食嚥下支援体制の充実	
誰もが地域で安心して暮らしつづけられる仕組みづくりの推進	重点的取組み2 生命と健康を守る地域医療充実への取組みと連携の強化	市民の生命と健康を守る病院機能の維持・充実	
		在宅医療と介護連携の強化	資料3-4:武蔵野市在宅医療・介護連携推進事業
		在宅医療を支える後方支援病床の検討	
		保健・医療・介護・福祉関係者の連携による課題解決に向けた取組みの推進	
	重点的取組み3 安心して暮らしつづけるための相談・支援体制の充実	相談支援体制の充実とネットワークの強化	資料4-1:福祉総合相談窓口の設置について 資料4-2:生活困窮者自立支援事業の実施状況について
		権利擁護事業・成年後見制度の利用促進	資料3-2:令和3年度 武蔵野市成年後見制度利用促進事業・事業実績について
		虐待防止の推進	
		見守り・孤立防止の推進	
		自殺対策の推進	資料7-2:武蔵野市自殺総合対策計画(2019~2024年)の進捗状況について
		災害時における避難支援体制づくり等の推進	
誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり	重点的取組み4 人材の確保と育成に向けた取組み	福祉人材の確保及び育成	
		地域包括ケア推進人材育成センター(仮称)の設置	資料3-1:武蔵野市地域包括ケア人材育成センター事業について(令和3年度)
住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備	重点的取組み5 新しい介護・福祉サービスの整備	複合的なニーズに対応する新しい施設の検討	資料5:高齢者施設の整備事業について
		ダブルケア、トリプルケアへの支援や介護離職防止のための取組みの検討	
		桜堤地域における福祉サービス再編の検討	

■その他の項目について

資料6 : 武蔵野市障害者福祉センターあり方検討委員会報告書 概要版

資料7-1 : 令和3年度事業の進捗(健康課)

資料7-3 : 武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備基本計画(素案)【概要版】



## 武蔵野市地域包括ケア人材育成センター事業について (令和3年度)

福祉サービスの拡充や地域福祉活動の推進に向け、専門職や地域の担い手も含めた福祉人材の育成と確保を目的に、「地域包括ケア人材育成センター」を平成30年12月1日に開設した。運営は公益財団法人武蔵野市福祉公社に委託している。

### ■事業内容

人材の発掘・養成、質の向上、相談受付や情報提供までを一体的に行う総合的な支援を開始した。第3期健康福祉総合計画に記載された「活かす」「育てる」「つなぐ」「支える」の4つの機能をもたせ、福祉サービス事業者及びその従事者への様々な支援を目的とした事業を順次実施していく。

#### ①人材養成事業（活かす）：介護職員初任者研修、武蔵野市認定ヘルパー養成研修 等

##### ア) 介護職員初任者研修

令和3年度	5/31(月)～8/31(火)、参加者11名、修了者11名 ※このうち対象者5名については、就労条件を満たした者から順次受講料返金制度適応した。
-------	---

##### イ) 初任者研修フォローアップミーティング

令和3年度	12/13(月)・参加11名
-------	----------------

##### ウ) 認定ヘルパー養成研修

令和3年度	第1回：7/19(月)～21(水)、26(月)～30(金)、修了者4名 第2回：2/21(月)、24(木)～25(金)(3日間)、修了者15名
-------	--

##### エ) 武蔵野市認定ヘルパーフォローアップ研修

令和3年度	テーマ：「認定ヘルパーさんへのエール」 第1回：10/12(火)受講者26名 第2回：11/8(月)～12(金)、動画配信・アンケート回収32名 第3回：12/8(水)受講者16名
-------	---

#### ②研修相談事業（育てる）：技術研修、認知症支援研修、福祉従事者の悩み相談 等

##### ア) 技術研修

令和3年度	11/1(月)～12/10(金)「移乗・移動支援研修」 <u>オンライン研修</u> ①「移乗支援」 ②「歩行支援」 ③「誤嚥予防につながる姿勢調整」 申込数：53事業者 206人、再生回数①317回 ②214回 ③211回
-------	--

##### イ) 武蔵野市認知症支援研修（全3回）

令和3年度	12/13(月)～1/21(金) <u>オンライン研修</u> ① 医療的アプローチ「認知症を来す疾患、症状と検査の特徴」 ② 心理的アプローチ「法律専門職による本人支援の実例」 ③ 実践的アプローチ「認知症相談を通して本人、家族への支援を考える」 申込者数 32事業者 155名 再生回数①294回 ②200回 ③172回
-------	--

##### ウ) 介護従事者の悩み相談事業

令和3年度 (4/1～3/11)	25件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有資格者の就労先相談</li> <li>・無資格者の介護職就労</li> <li>・他地域(京都府)からの事業所への不満</li> <li>・訪問先で、コロナ陽性者と知った時の対応 等</li> </ul>
---------------------	-----	---

エ) 喀痰吸引等研修

令和3年度	研修実施委員会：第1回7/19(月) 8/24(火)・26(木)基本研修、高齢者総合センター、受講・修了者5名、実地研修のみ延10名修了。
-------	--

オ) その他

◎初任者研修受講料返還制度

令和3年度	5名
-------	----

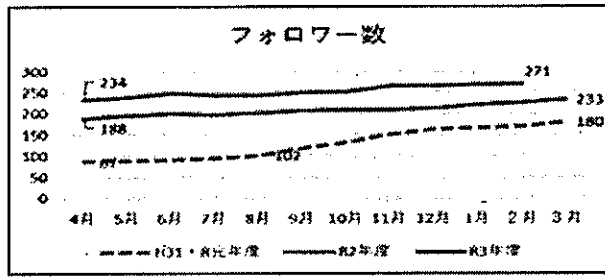
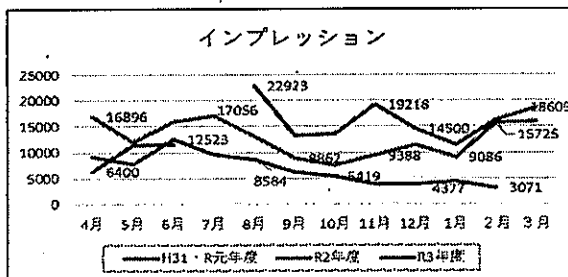
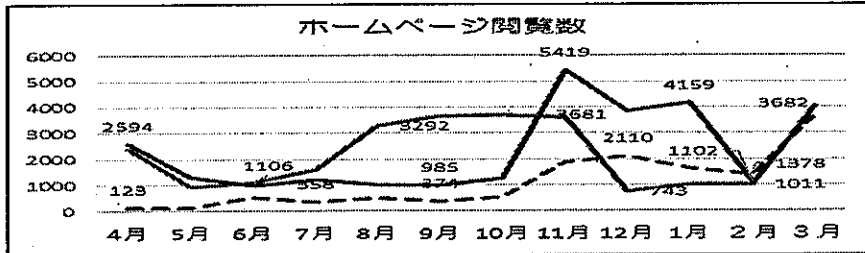
◎特定研修受講勸奨助成事業

令和3年度	2名(喀痰吸引等研修)
-------	-------------

③就職支援事業(つなぐ)：ホームページ・ツイッター等による情報提供、お仕事フェア、就職相談会等

令和3年度	◎プロジェクト「若ば」 ・介護系40歳未満職員を対象。若手の離職防止、定着支援を目的に情報共有・情報発信、さらには創造の場の共有を行う。 ・オンライン開催：6/18、参加者11名(事務局含む)
	◎介護・福祉のお仕事フェア ・介護の仕事に関する普及・啓発。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施。
	◎潜在的有資格者復帰支援 ・新冊子の配布(9,000部新聞折込、1,000部ハローワーク、吉祥寺商業スペース、調剤薬局等設置)
	◎潜在的有資格者復帰研修 4/27(火)、5/25(火)2名
	◎デジタルサイネージによる広報 武蔵野・青梅街道営業所内125台の車両内デジタルサイネージによる広報継続

※ホームページ等での情報提供 ■■■■ H31年度、R元年度 ■■■ R2年度 ■■■ R3年度



④事業者・団体支援事業(支える)：管理者・経営者向け研修、事業所の求人案内等。

令和3年度	◎管理者・経営者向け研修 テーマ：アンガーマネジメントについて講師：田辺有理子氏(横浜市立大学看護学部) 第1回：「管理者のためのアンガーマネジメント～自分の感情と向き合うスキルについて考える～」 8/30(月)、会場(定員40名)+ライブ配信。武蔵野プレイス・フォーラム。 参加者…会場25名、オンライン56名、計81名 第2回：「リーダーのためのアンガーマネジメント活用法～事例を通して考える～」 2/15(火)、オンライン開催、参加者51名
-------	---

## 令和3年度 武蔵野市成年後見制度利用促進事業・事業実績について

### 1 武蔵野市成年後見利用支援センター事業について

#### (1) 普及・啓発事業

- ①講演会「はじめての成年後見～ご本人もご家族も幸せに(財産管理 遺言 相続を含めて)～」
  - ・令和3年9月25日(土)・武蔵野商工会館4階市民会議室(ゼロワンホール)
  - ・講師：中山二基子弁護士
  - ・参加人数：37名(40名定員、感染症対策で会場定員の半分)
- ②学習会・相談会「親なき後に備えるための成年後見～専門職の実践報告に学ぶ～」【新規】
  - ・令和3年12月11日(土)・武蔵野スイングビル・スカイルーム
  - ・内容：主に障害の子を持つ親を対象に、前半は専門職からの実践報告による学習会、後半は希望者に個別相談会(学習会講師が相談者)を実施。
  - ・講師等(地域連携ネットワーク連絡協議会委員に依頼)：後藤明宏委員【司会】、久保田聡委員(弁護士)、松本美姫委員(司法書士)、武田嘉郎委員(社会福祉士)、松丘晃委員(行政書士)
  - ・参加人数：学習会38名(定員40名、感染症対策で会場定員の半分以下)、個別相談8組9名



- ③おいじたく講座(権利擁護センター共催、令和3年4月～令和4年2月)
  - ・エンディングノートの書き方講座：計6回、30名参加
  - ・おいじたくの基礎知識：計8回、38名参加
  - ・成年後見制度について：計8回、35名参加
  - ・出張おいじたく講座：計3回、38名参加

#### (2) 相談事業

##### ①成年後見相談(※権利擁護センターと共同実施)

月	電話相談				個別相談(面接・訪問等による)	計
	成年後見	権利擁護	その他	小計		
4～2月 計	114件	25件	26件	165件	51件	216件

## ② 法律相談（弁護士）

### 第2火曜日 特別顧問弁護士による成年後見等法律相談

月	成年後見	権利擁護	その他	計
4～2月 計	8件	4件	12件	24件

### 第4水曜日 高齢者に係る一般的法律相談

月	成年後見	権利擁護	その他	計
4～2月 計	1件	10件	12件	23件

## ③ 成年後見相談会等（相談員派遣）

- ・令和4年3月15日、2名参加（公社相談員担当分のみ）
- ・主催：NPO法人むさしの成年後見サポートセンターこだまネット

## (3) 担い手の育成～市民後見人の養成講座（令和3年度：副幹事市）

- ・令和3年度7市合同市民後見人等フォローアップ講習

令和3年11月15日～令和4年1月31日、全7回（オンライン等）

※7市：三鷹市、小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、西東京市、武蔵野市

## 2 地域連携ネットワークの運営

### ◆武蔵野市成年後見制度地域連携ネットワーク連絡協議会（オンライン）

	第1回	第2回
期日	令和3年7月26日（月）	令和4年2月9日（水）
議題・報告事項	(1) 令和2年度 武蔵野市成年後見制度利用促進事業・事業報告について (2) 令和3年度 武蔵野市成年後見制度利用促進事業・事業計画(案)について (3) 福祉公社利益相反事例について (4) 国・都・裁判所からの情報提供等	(1) 令和3年度 武蔵野市成年後見制度利用促進事業・実施状況報告について (2) 令和4年度 武蔵野市成年後見制度利用促進事業・事業計画(案)について (3) 福祉公社利益相反事例について (4) 事例検討について (5) 国・都・裁判所からの情報提供等 (6) 住民税非課税世帯等臨時特別給付金について

## 3 市長申立実績（令和4年3月11日現在）

年	令和元年	令和2年	令和3年
件数	3件	10件	4件

## 4 成年後見人等報酬支払費用助成事業について（令和4年3月11日現在）

- ・助成上限額： 在宅 28,000円、施設 21,000円

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	10件	13件	12件
助成金額	910,000円	1,820,250円	2,777,000円



## 武蔵野市シニア支え合いポイント制度について

### 1. 令和3年度事業報告

#### (1) 令和3年度説明会参加者数及びサポーター登録者数

説明会	令和3年度	【参考】令和2年度
開催回数	7回	7回
参加者数	22名	27名
登録者数	16名	26名

※令和3年度はオンライン開催1回を含む

※令和3年5月、7月、11月、令和4年2月の説明会について参加者なしのため中止

※令和3年11月19日（金）新規協力団体（関前福祉の会）での出前説明会を追加実施

#### (2) 令和3年度分ポイントの交換

交換期間 令和4年3月1日～3月31日

交換方法 ①窓口にて申請（ボランティアセンター武蔵野、地域支援課）  
②郵送にて申請

交換内容 武蔵野市民社会福祉協議会への寄付、市内産野菜等引換券、人間ドック利用助成券、図書カード、QUOカード、こども商品券

交換実績 16名（令和4年3月8日現在）※今年度活動が無く、更新のみの9名を含めると25名となる。

#### (3) 協力施設・団体（令和4年3月1日現在）

##### 32 施設・団体

令和3年7月より加入・・・関前福祉の会

#### (4) 協力施設・団体に係るコロナ状況下における取り組み

新規登録者の受け入れ状況やコロナ状況下における活動内容の把握のため、協力施設・団体にアンケート調査を行った。現状では新規登録者の受け入れ可能施設が9団体、継続サポーターのみ受け入れ可能施設が5団体ほどで、非接触型の活動（庭の手入れ等）に限られている（令和4年1月26日現在）。

#### (5) 令和3年度シニア支え合いサポーター交流会の開催

日時 令和4年3月15日（火） 10時30分～11時30分

場所 武蔵野プレイス4階フォーラム

内容 ・9か所の協力施設・団体の紹介（パネル展示）

（ゆとりえ、稲垣薬局デイサービス吉祥寺、吉祥寺ナーシングホーム、吉西福祉の会、  
テンミリオンハウスくるみの木、とらいふ武蔵野、親の家、テンミリオンハウスきんもくせい、  
桜堤ケアハウス）

・折り紙での作品作りを通したサポーター同士の交流や情報交換（作成後は協力施設・団体に寄贈）  
・令和3年度分ポイント交換申請および手帳の更新

参加 12名

裏面あり

## 2. 令和4年度事業計画

### (1) 令和4年度事業方針

現状		令和4年度事業計画
1	○活動をしていないサポーターが多い。 ○活動者が少ない施設・団体がある。 ○西部地区にポイント交換申請の受付場所がない。	○サポーター交流会については、令和3年度実績を検証したうえで、協力施設・団体の紹介、サポーター同士の情報共有の場を設ける。開催時期はポイント交換期間の3月とし、その場でポイント交換申請を受け付ける。 ○令和4年度もニュースレターを年2回発行し、年度途中で協力施設・団体の受け入れ状況を既存のサポーターへ周知する。
2	○説明会の参加者数が少ない。	○令和3年度に引き続き、10月に会場とオンラインのハイブリッド開催し、参加者の受け入れ体制を強化する。 ○出前による説明会を要望に応じて実施する。
3	○新型コロナウイルス感染症の影響で、サポーターができるボランティア活動が非常に少ない。	○オンラインの活用とともに、新型コロナウイルス感染症の影響下においても継続可能な活動（園芸、手芸、縫製等）の情報共有を行う。 ○各施設に他施設の活動内容について情報共有し、新型コロナの状況下においても継続できる活動がないか検討いただく。

### (2) 説明会スケジュール

	日程	会場
1	4月22日(金)	スイング スカイルーム1
2	5月25日(水)	武蔵野市役所 813会議室
3	6月30日(木)	商工会議所 第1会議室
4	7月27日(水)	スイング スカイルーム1
5	9月16日(金)	商工会議所 第1会議室
6	10月25日(火)	武蔵野市民社会福祉協議会 1階 会議室

※10月の説明会はオンラインと会場のハイブリッド開催とする。

※上記以外にも出前による説明会を要望に応じて実施する。

### (3) 広報

- ・チラシ      ・市報      ・むさしのFM
- ・介護保険 65歳年齢到達者被保険者証送付時チラシを同封      ・ホームページ      等

### (4) 協力依頼予定施設・団体

新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、高齢者施設や高齢者を対象とした事業に限らず協力依頼をするとともに、既存施設・団体の活動状況を定期的に把握しながら、継続可能な活動内容を情報共有する。

### (5) 令和4年度分のポイント付与・交換について

〈ポイント付与期間〉      令和4年3月～令和5年2月

〈交換申請期間〉      令和5年3月中

武蔵野市在宅医療・介護連携推進事業  
～国の定める8事業(ア)～(ク)への取り組みについて～

	8事業	令和元年度の実績	令和2年度の実績	令和3年度の実績
(ア)	地域の医療・介護の資源の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存資料の活用</li> <li>リハビリテーション・シミュレーション機能名簿のWEB化</li> <li>WEBマップ導入の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存資料の活用</li> <li>リハビリテーション・シミュレーション機能名簿のWEB化(更新)</li> <li>医療・介護マップ(WEB版)の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存資料の活用</li> <li>リハビリテーション・シミュレーション機能名簿の更新</li> <li>医療・介護マップ(WEB版)の活用</li> </ul>
(イ)	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催(3回開催)</li> <li>5部会で活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催(2回開催)</li> <li>5部会で活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の開催(2回開催)</li> <li>5部会で活動</li> </ul>
(ウ)	切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時の病院への情報提供の仕方について、「入院時情報連携シート」を作成し活用</li> <li>退院時の情報提供について看護サマリーの活用状況調査</li> <li>身寄りのない入院患者の意思確認方法について検討</li> <li>認知症高齢者を支援するための医療と介護のチームによる連携の体制づくりについて検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「入院時情報連携シート」の活用状況調査</li> <li>身寄りのない入院患者の対応について事例を通して検討</li> <li>コロナ禍での入院時の支援について意見交換</li> <li>今年度の認知症初期集中支援事業4事例を対象とした事例研究の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「入院時情報連携シート」の活用と見直し</li> <li>コロナ禍での入院時の支援について意見交換</li> <li>認知症初期集中支援事業事例を対象とした事例研究の実施</li> </ul>
(エ)	医療・介護関係者の情報共有の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT連携の現状把握</li> <li>ICT連携登録数 605件</li> <li>医師会「在宅医療介護連携支援室」のホームページの開設(2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でのICT連携の状況把握</li> <li>ICT連携登録数 637件</li> <li>医師会「在宅医療介護連携支援室」のホームページの活用状況の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でのICT連携の状況把握</li> <li>ICT連携登録数 659件(令和4年2月末現在)</li> <li>医師会「在宅医療介護連携支援室」のホームページの活用状況の確認</li> </ul>
(オ)	在宅医療・介護連携に関する相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談実績 203件</li> <li>医師会の窓口として(ア)～(ク)8事業へ参加、各部会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談実績 276件</li> <li>医師会の窓口として(ア)～(ク)8事業へ参加、各部会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談実績 170件(令和4年2月末現在)</li> <li>医師会の窓口として(ア)～(ク)8事業へ参加、各部会への参加</li> </ul>
(カ)	医療・介護関係者の研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ACP」をテーマに事前研修と合同グループワークを実施</li> <li>①事前研修(講演会) 147名参加</li> <li>②合同グループワーク 77名参加</li> <li>他の職種との連携の広がり、テーマに対する知識の深まりの確認のため、3か月後にアンケートを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ACP」をテーマに研修会(オンライン)を実施 110名参加</li> <li>コロナ禍のため、合同グループワークは実施せず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新型コロナウイルス感染症における自宅療養支援と在宅医療介護連携」をテーマにオンライン研修実施。</li> <li>198アカウント、291名参加</li> <li>「認知症初期集中事例について」150名参加</li> </ul>
(キ)	地域住民への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民向けの普及啓発について検討</li> <li>①市民向けセミナー開催</li> <li>2月15日(土) スイングホール 165名参加</li> <li>「住み慣れた地域で、安心して医療と介護を受けるために～在宅への復帰を支援する『地域包括ケア病床』～」</li> <li>「ケアリンク武蔵野2019」704名参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民向けの普及啓発について検討</li> <li>①市民向けセミナー開催(オンライン)</li> <li>2月19日(金)～25日(木)</li> <li>「住み慣れた地域で、安心して医療と介護を受けるために」映画「ケアリンク～あなただよかつた～」の配信 118名参加</li> <li>②パンフレットの配布</li> <li>「ケアリンク武蔵野」はコロナ禍のため、中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民向けの普及啓発について検討</li> <li>①市民向けセミナー開催(オンライン)</li> <li>2月18日(金)～3月3日(木)</li> <li>「住み慣れた地域で、安心して医療と介護を受けるために」映画「ケアリンク～あなただよかつた～」の配信 104名参加</li> <li>②パンフレットの改定作業</li> </ul>
(ク)	在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>北多摩南部保健医療圏による情報共有</li> <li>リハビリテーション・シミュレーション機能名簿の更新準備</li> <li>東京都在宅療養担当者連絡会への参加、情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北多摩南部保健医療圏による情報共有</li> <li>リハビリテーション・シミュレーション機能名簿のWEB化(更新)(再掲)</li> <li>東京都在宅療養担当者連絡会(書面開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北多摩南部保健医療圏による情報共有</li> <li>リハビリテーション・シミュレーション機能名簿の更新</li> <li>東京都在宅療養担当者連絡会(中止)資料送付による、情報共有</li> </ul>

令和3年度  
武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会と5部会の構成

武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会

任期：令和3年4月1日～令和6年3月31日まで

【構成メンバー】

- 武蔵野市医師会 ○医師会在宅医療介護連携支援室
- 武蔵野市歯科医師会 ○武蔵野市薬剤師会
- 武蔵野赤十字病院 ○居宅介護支援事業所 ○訪問介護事業所
- 訪問看護・訪問リハビリテーション事業所
- 通所介護・通所リハビリテーション事業所
- 地域包括支援センター(基幹型) ○在宅介護・地域包括支援センター
- 基幹相談支援センター ○地域活動支援センター ○武蔵野市福祉公社
- 武蔵野健康づくり事業団 ○東京都多摩府中保健所 ○武蔵野市

<p>(ウ)切れ目のない在宅医療と介護サービス提供体制の構築</p> <p>入退院時支援部会 【構成メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会 ○医師会(病院部)</li> <li>○医師会支援室 ○歯科医師会</li> <li>○武蔵野赤十字病院(医療連携センター)</li> <li>○居宅介護支援事業所 ○通所介護</li> <li>○訪問看護・訪問リハ ○通所介護・通所リハ</li> <li>○吉祥寺南病院地域医療連携室</li> <li>○武蔵境病院地域医療連携室</li> <li>○武蔵野陽和会病院医療福祉相談室</li> <li>○吉方病院</li> <li>○地域包括支援センター(基幹型)</li> <li>○在宅介護・地域包括支援センター</li> <li>○生活福祉課 ○障害者福祉課 ○健康課</li> <li>○事務局(地域支援課)</li> </ul>	<p>(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援</p> <p>ICT連携部会 【構成メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会</li> <li>○医師会支援室</li> <li>○歯科医師会</li> <li>○武蔵野赤十字病院</li> <li>○居宅介護支援事業所</li> <li>○訪問看護・訪問リハ</li> <li>○訪問介護</li> <li>○通所介護・通所リハ</li> <li>○地域包括支援センター(基幹型)</li> <li>○在宅介護・地域包括支援センター</li> <li>○高齢者支援課</li> <li>○事務局(地域支援課)</li> </ul>	<p>(イ)医療・介護関係者の研修</p> <p>多職種連携推進・研修部会 【構成メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会 ○医師会支援室</li> <li>○歯科医師会 ○薬剤師会</li> <li>○武蔵野赤十字病院(医療連携センター)</li> <li>○居宅介護支援事業所</li> <li>○訪問看護・訪問リハ ○訪問介護</li> <li>○通所介護・通所リハ ○福祉公社</li> <li>○地域包括支援センター(基幹型)</li> <li>○在宅介護・地域包括支援センター</li> <li>○多摩府中保健所</li> <li>○健康づくり事業団</li> <li>○生活福祉課 ○高齢者支援課 ○健康課</li> <li>○障害者福祉課 ○保険年金課 ○健康課</li> <li>○事務局(地域支援課)</li> </ul>	<p>(キ)地域住民への普及啓発</p> <p>普及・啓発部会 【構成メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会支援室</li> <li>○歯科医師会</li> <li>○薬剤師会</li> <li>○武蔵野赤十字病院(医療連携センター)</li> <li>○居宅介護支援事業所</li> <li>○訪問看護・訪問リハ ○訪問介護</li> <li>○地域包括支援センター(基幹型)</li> <li>○在宅介護・地域包括支援センター</li> <li>○健康づくり事業団</li> <li>○高齢者支援課</li> <li>○健康課</li> <li>○事務局(地域支援課)</li> </ul>
--	--	--	---

<p>(ウ)(エ) 認知症連携部会 【構成メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会 ○武蔵野赤十字病院 ○日赤医療連携センター ○訪問看護・訪問リハ</li> <li>○福祉公社(ホームヘルプセンター) ○居宅介護支援事業所 ○訪問介護</li> <li>○通所介護・通所リハ ○認知症介護指導者 ○地域支援課</li> <li>○地域包括支援センター(基幹型) ○在宅介護・地域包括支援センター</li> <li>○事務局(高齢者支援課相談支援係)</li> </ul>	<p>平成29年7月設置</p>
---	------------------

## 福祉総合相談窓口の設置について

### 1 令和3年度の現状と課題

- 令和3年4月 生活福祉課生活相談係に窓口設置。職員体制は、正職員4名と会計年度任用職員1名のうち、生活困窮者自立支援事業担当を除く3名が福祉相談コーディネーター。
- 福祉総合相談窓口は、市報、生活困窮チラシでの周知により「困っていること」の相談として本人や家族から電話で相談される方が多い。
- 内容は、ひきこもりに関する相談以外に、銭湯の休業、強制退去、若年がん患者に関すること、アルコール依存症や認知症の親族からの相談など多岐にわたる。また、担当課でトラブルを抱えている方からクレームや調整してほしいとの相談もみられた。
- ひきこもりや世帯で複数の課題を抱えているケースは、情報収集と整理、アセスメントを行い、支援方針を明確にした結果として担当課につながるため、福祉総合相談窓口が年単位で関わり続けなければいけないケースもある。単に年齢や属性で振り分けられる窓口ではない。
- ひきこもり相談に関しては、福祉総合相談窓口から継続支援を依頼できる先につなぐほか、福祉総合相談窓口で継続支援してきたケースが就労につながったり、家族の気持ちに寄り添いつつ医療につながったり、当初はひきこもり当事者には会えず家族支援を続けてきた結果、当事者の希望で面談ができるようになる等、時間はかかるが支援は着実に届いてきていると考える。せつかくつながった相談者を孤独にさせないように、状況を見ながらつながり続ける必要のあるケースが多い。
- 総合支援調整会議をこれまで8回行い、庁内の関係各課と事例の共有や連携方法の確認を行った。

令和3年度 総合相談実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数(のべ)	64	50	22	27	38	66	34	31	67	32	53		484
うち 来所	3	5	1	6	4	3	5	5	10	5	4		51
電話	45	28	21	14	23	48	20	18	47	18	44		326
その他(FAX・Mail)	16	17	0	7	11	15	9	8	10	9	5		107
初回相談者数(実人数・名寄せ)	16	12	6	7	8	6	7	6	12	5	7		92
うち ひきこもり	5	4	2	0	1	1	2	1	2	0	0		18
継続相談者数(実人数)	5	3	1	2	0	0	1	0	1	0	1		14

### 2 令和4年度の方向性

- 引きつづき丁寧な聴き取りと関係各課や機関等との連携に努め、相談者を孤独にさせない相談支援体制づくりを進める。
- 総合支援調整会議で庁内での重層的相談支援の検討を行ってきたが、4年度は範囲を広げ、庁内会議から庁外の関係支援機関の担当者を入れた会議として地域の福祉課題を調整の場を目指す。
- ひきこもり支援については、当事者、家族が参加しやすいよう、従来のひきこもりサポート事業「それいゆ」に加え、市民向けの講演会や近隣市との地域広域連携事業に取り組むとともに、「ひきこもり」に関して地域に正しい理解を促す事業を展開していく。
- コロナ禍の生活困窮や生活保護相談が減らず、内容も複雑化している中で、実際のひきこもり支援や事業の検討等に専念できるよう、4月から会計年度任用職員を1名増員し、福祉総合相談窓口やひきこもり支援事業の充実を図る。



## 生活困窮者自立支援事業の実施状況について

- 1 生活困窮者総合相談窓口実績 ※令和3年度については2月末現在  
平成27年度より生活困窮者総合相談窓口を設置。

令和3年度1月までの相談件数は、前年度から新型コロナウイルスの影響により住居確保給付金の要件が緩和されていることから、昨年度より減少しているものの引き続き多い傾向にある。生活困窮者総合相談窓口は、これまでの周知により、一定の認知を得てきたが、今年度は12月に周知チラシの全戸配布。

平成27～令和3年度相談件数

(単位:件)

年度	27	28	29	30	R1	R2	R3 2月末 (R2 同期)
生活困窮相談	258	322	313	377	367	1,341	807 (1,279)
生活保護相談	628	632	563	631	626	660	561 ( 595)
合計	886	954	876	1,008	993	2,001	1,368 (1,874)

注) 相談内容から生活困窮相談、生活保護相談の双方に計上したものあり。

- 2 法内事業の利用件数等実績 ※令和3年度については2月末現在

(1) 自立相談支援事業 (委託先 公益財団法人武蔵野市福祉公社)

複合的課題を抱える傾向にある生活困窮者に対し、課題等の解決に向けて本人の状況に応じた包括的な支援を実施。

平成27～令和3年度支援実績

(単位:件)

年度	27	28	29	30	R1	R2	R3 2月末 (R2 同期)
新規利用件数	66	114	110	114	167	1,358	724 (1,160)

(2) 住居確保給付金支給事業

離職等による住居の喪失を防止するため、家賃相当額 (上限額あり) の給付金を支給。

令和2年度より年齢要件の緩和や、新型コロナウイルスに対応するため、離職要件等の緩和、支給期間の延長等が行われ、申請者が大きく増加。令和3年度は特例再支給の延長等あり。令和4年6月末まで延長。

平成27～令和3年度支援実績

(単位:件)

年度	27	28	29	30	R1	R2	R3 2月末 (R2 同期)
新規支給決定	16	19	15	24	31	450	116 (415)

(3) 就労準備支援事業 (委託先 社会福祉法人武蔵野)

直ちに就労が困難な生活困窮者に対し、一般就労の前段階としての社会的能力の習得や就職活動に向けた知識の習得等の支援を実施。

平成 27～令和 3 年度支援実績

(単位：人)

年 度	27	28	29	30	R1	R2	R3 2月末 (R2 同期)
実利用者数	2	13	17	9	9	6	6 (6)

(4) 学習支援事業（〔少人数型〕 公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター  
〔サポート型〕 株式会社トライグループ）

貧困の連鎖の防止を目的に、基礎学力の向上を目指した補習教室を実施。

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの影響により、6 月から教室を実施。令和 3 年度は終了時間の繰り上げあり。

平成 27～令和 3 年度支援実績（少人数型）

(単位：人)

年 度	27	28	29	30	R1	R2	R3 2月末 (R2 同期)
実利用者数	9	11	10	35	27	18	13 (18)

令和元年度～令和 3 年度支援実績（サポート型）

(単位：人)

年 度	R1	R2	R3 2月末 (R2 同期)
実利用者数	11	14	10 (14)

(5) 家計改善支援事業

生活困窮者が自身で家計の把握を行い、その改善に取り組む力を育てる支援。

平成 27～令和 3 年度支援実績

(単位：人)

年 度	30	R1	R2	R3 1月末 (R2 同期)
実利用者数	7	4	2	10 (2)

3 広報・周知、連携について

(1) 広報、周知

- ①市報掲載（5月1日号、7月1日号、7月15日号、10月1日号、10月15日号、11月1日号、11月15日号、1月15日号）
- ②「啓発用カード」を関係各課・関係施設へ配布（7月）・見守り・孤立防止ネットワーク連絡協議会（11月・3月）
- ③4月、7月、10月 国際交流協会 MIA カレンダー（生活困窮に関する窓口）
- ④7月、10月 健康福祉部だより（自立支援金、住居契約更新料給付金、特別就職支援金、庁内困窮会議）
- ⑤8月、10月 障害者福祉課のつながり（身体・知的対象）（相談窓口）
- ⑥10月、11月 ツイッター・フェイスブック（困窮の相談窓口・子どもの学習支援事業）
- ⑦事業周知チラシ全戸配布（12月）
- ⑧10月、11月 FM 武蔵野（住居契約更新料給付金、特別就職支援金、学習支援教室）



(2) 連携

- ①庁内連携 生活困窮者自立支援庁内連絡会議（実務担当者会議）（2/14）
- ②庁外連携 見守り・孤立防止ネットワーク連絡協議会（11/2・3/4）

4 生活困窮者自立支援金支給事業

新型コロナウイルス感染症による影響の長期化に対し、福祉資金の特例貸付制度の再貸付まで終了した方を対象に、令和3年7月より支給期間3か月間、6万～10万円/月（世帯人数により異なる）の支援金を支給。12月1日より再支給受付開始。申請期限は令和4年6月末まで延長。

令和3年度支援実績

（単位：人）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	R3年度 累計
支給者数	33	64	85	58	43	62	88	113	546
内新規 支給者数	33	31	21	7	16	11	12	23	154

5 市独自事業

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で生活に困窮する世帯について、武蔵野市独自の支援策として、当該世帯の生計中心者が常用就職等をした際の初回給与入金までの生活安定及び就労の定着を目的とした「特別就職支援金」と、生活に困窮する世帯が現在の住居を喪失することを防ぐための「住居契約更新料給付金」を10月より実施。

(1) 生活困窮者特別就職支援金支給事業

主たる生計維持者の求職意欲を喚起し、常用就職した場合に給与の入金までの生活の安定及び就労定着のための一助として、特別就職支援金を支給。対象は、住居確保給付金または生活困窮者自立支援金を受給中の者で初回支援金5万円を支給後、6か月就労継続時に、さらに5万円を1回のみ支給。

令和3年度支援実績

（単位：人）

	10月	11月	12月	1月	2月	R3年度 累計
支給者数（初回）	0	1	2	1	0	4

(2) 生活困窮者住居契約更新料給付金支給事業

経済的に困窮し、住居喪失の恐れのある住居確保給付金受給世帯に対し、賃貸借契約の更新にかかる費用の一部を支給。支給決定された住居確保給付金の月額又は更新料のいずれか少ない額を支給。支給上限あり。

令和3年度支援実績

（単位：人）

	10月	11月	12月	1月	2月	R3年度 累計
支給者数	0	12	10	1	2	25



## 高齢者施設の整備状況等について

武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画では、大規模な土地の確保が困難な本市の地域性にあった施設整備を掲げています。現時点での整備状況等について下記のとおりご報告いたします。

### 記

#### 1 中町3丁目国有地の活用について

- 高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画では小規模多機能型居宅介護を併設した地域密着型特別養護老人ホームの整備を計画したが、令和3年1月に公募決定事業者より取下げ書が提出された。
- そのため、市より関東財務局に中町3丁目国有地に関する要望書「市としての方針を再調整したい」旨を提出したところ、関東財務局より、「定期借地により貸し付けることを決定した財産であり、事業者の再公募を前提に検討を願う」旨の回答を受理する。
- そこで、事業者の再公募にあたり、事前に小規模多機能型居宅介護を併設した地域密着型特別養護老人ホームの整備の可能性について「サウンディング型市場調査」を実施した。
- 「サウンディング型市場調査」では、
  - ・ 国の貸付条件は市場価格と連動するため、貸付料が高額になることが見込まれ安定的な事業運営を行うことができない
  - ・ 接道が狭く、一方通行で通所サービスなどの送迎にも課題があり、総合的に特別養護老人ホームや通所サービス向きの土地ではない
  - ・ 地域に開かれた施設としては、地域交流スペースや喫茶、公園などが必要であるが、経営のためには居室が優先されるためこれらの整備は難しいなどのご意見をいただいた。
- これらの結果から、中町3丁目国有地については、施設経営の継続性という長期的視点、土地の形状や環境などの物理的な条件などを総合的に勘案した結果、小規模多機能型居宅介護を併設した地域密着型特別養護老人ホームの整備を見送ることとした。

#### 2 特別養護老人ホームの入所定員増

- 特別養護老人ホームとらいふ武蔵野  
ショートステイ床の変更により、5名分の入所定員を増員。(令和3年4月1日東京都指定)
  - 特別養護老人ホーム武蔵野館  
多床室整備補助により、10名分の入所定員を増員。(令和3年9月1日東京都指定)
- ※上記の入所定員増(合計15名分)により、市内の特別養護老人ホームの定員数は392名から407名に拡大。

### 3 認知症高齢者グループホームの整備

認知症高齢者グループホームを整備・開設する事業者公募を実施し、地域密着型サービスに関する事項などを審議する「武蔵野市地域包括ケア推進協議会」で応募事業者による事業者プレゼンテーションを行った。その後、「武蔵野市地域包括ケア推進協議会」からの意見を踏まえた「武蔵野市指定地域密着型サービス事業者等選定委員会」の審査報告を受け、次のとおり選定した。

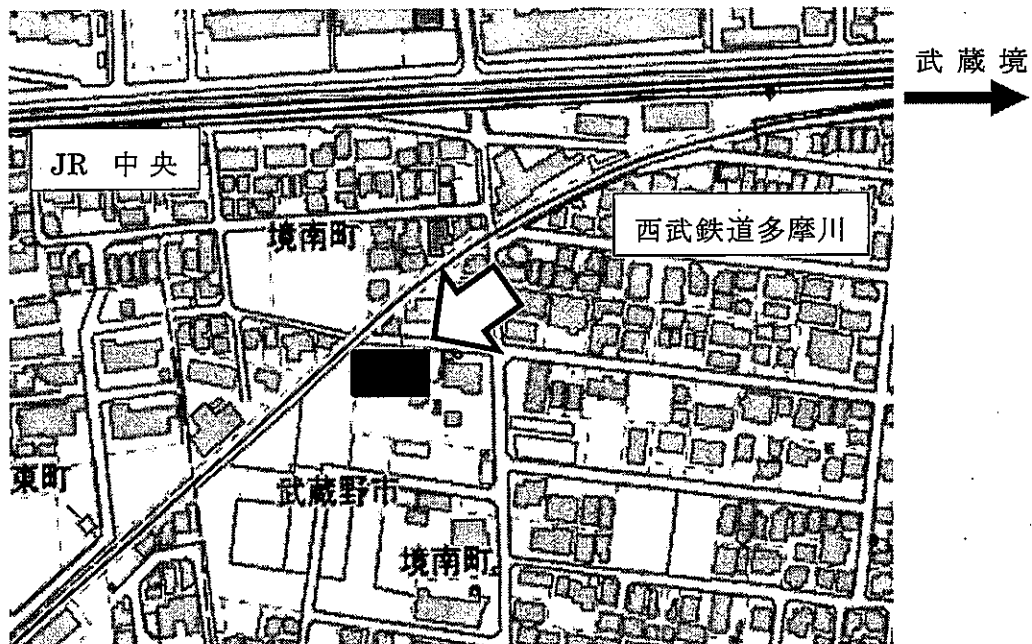
#### (1) 経緯

年月日	内容
令和3年6月16日	厚生委員会で事業者公募について行政報告。
7月6,7日	事業者説明会を開催。5事業者が参加。
9月17日	事業者応募締切。1事業者が応募。
10月18日	「武蔵野市地域包括ケア推進協議会」で応募事業者による事業者プレゼンテーションの実施。 【委員構成】学識経験者、医療関係者団体、介護保険事業者、権利擁護事業担当、地域福祉関係者、高齢者団体、第1号被保険者と第2号被保険者の公募市民
11月9日	「武蔵野市指定地域密着型サービス事業者等選定委員会」で審査。 【委員構成】学識経験者、公認会計士、介護サービスの有識者及び市職員

#### (2) 選定結果

選定事業者	株式会社ケア21		
場所	武蔵野市境南町4丁目11番（敷地面積752.82㎡）		
定員	2ユニット18人	開設予定日	令和5年12月1日
利用料（予定）	月額180,000円（内訳：家賃135,100円、管理費20,000円、食費24,900円）		

#### 【案内図】



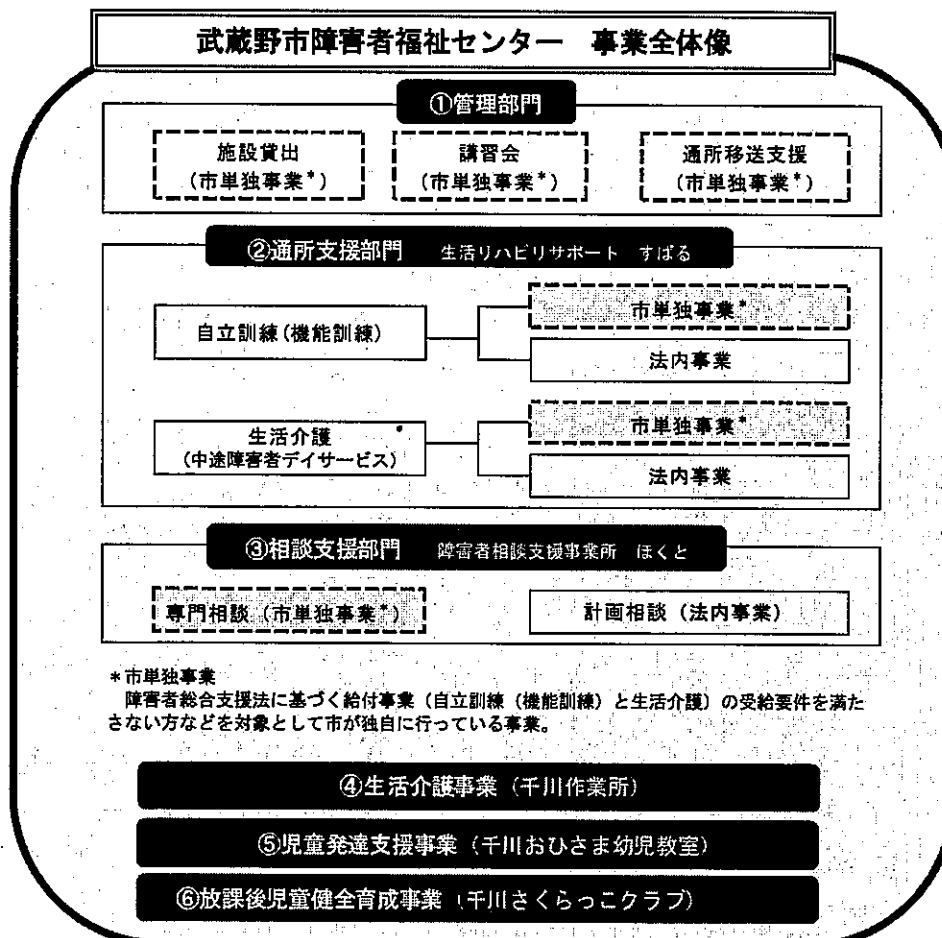
## 武蔵野市障害者福祉センターあり方検討委員会報告書 概要版

### 1 検討の背景と目的

昭和55(1980)年に開設後、築40年が経過している障害者福祉センターについては、令和3(2021)年2月の公共施設等総合管理計画庁内推進本部にて、劣化状況調査の結果、建物全体で経年相当の劣化が進行しているため、大規模改修を実施するか、建て替えを実施するか、今後の方針を早急に検討する必要があるとの報告がなされた。この報告を受け、本委員会を設置し、建物・設備の老朽化に伴う大規模改修や業務のあり方、機能の見直しについて検討を行った。

### 2 現状と課題

社会福祉法人武蔵野を障害者福祉センターの指定管理者に指定し、障害者福祉センターの一部を社会福祉法人武蔵野千川福祉会に貸し出している。障害者福祉センターで行なわれている事業は、障害者総合支援法に基づく自立支援給付事業と市の単独事業に大別される。どの事業も障害のある方へのサービスに欠かせないものであり、事業を継続するには安全を確保することが第一であるが、現在の建物の状況では構造が複雑で死角が多いなど、安全上の課題が多いことを確認した。



(裏面あり)

### 3 課題解決策の検討

公共施設等総合管理計画における、公共施設は60年間建物を使用する、という原則に沿って、改修等により現状の課題を解決することが可能かどうか、大規模改修をした場合及び建て替えた場合についてそれぞれ課題解決策を検討した。その結果、建物形状の特性や、障害者が利用する機器や補装具も変わる中、現在の法規制に対応した安全性を確保するのは大規模改修では難しく、建て替えを行って課題の解決を図るのが望ましい、という意見で一致した。

### 4 まとめ

障害のある方にとって、障害者福祉センターのニーズは高い。特に疾病等による中途障害等、法制度の網にかからない方や重度の障害のある方を支援する施設として、障害者福祉センターの機能は欠かせないものである。

、公で担うべき役割を整理し、また、介護保険サービスや、障害者総合支援法になじまない方への支援として、ピアサポート機能、医療系の専門職による相談支援機能、生活のためのリハビリテーション、就業や復学のためのリハビリテーションなどが必要となってくる。大規模改修とした場合や建て替えとした場合の工事費用などのコストバランスを考慮する必要はあるが、大規模改修ではなく、旧なごみの家の敷地も一体として考え、建て替えを選択することで、地域に開かれた施設でありながら、障害者施策の中心的機能を担い、今後必要となる支援にも対応できる施設となることが考えられる、という意見で一致した。

### 5 委員及び任期 (50音順、敬称略、任期は令和3年5月25日から令和3年12月31日まで)

	氏名	所属	選任区分
1	秋元 秀昭	武蔵野赤十字病院リハビリテーション科部長	武蔵野市医師会
2	井原 潮理	武蔵野市障害者福祉協会会長	障害者福祉センター運営協議会
3	◎岩本 操	武蔵野大学人間科学部人間科学科教授	地域自立支援協議会
4	植村由紀彦	(社福) 武蔵野 地域生活支援センターぴーと 施設長	地域自立支援協議会
5	○唐澤 啓一	(社福) 武蔵野千川福祉会千川作業所所長	障害者福祉センター運営協議会
6	柴崎 美紀	杏林大学保健学部看護学科教授	学識経験者
7	矢島 和美	民生児童委員協議会会長	障害者福祉センター運営協議会
8	山田 剛	健康福祉部長	行政

◎委員長、○副委員長

### 6 委員会等の開催経過

	開催日	内容
第1回	令和3(2021)年5月25日	障害者福祉センターの経緯、建物見学
第2回	令和3(2021)年6月30日	障害者福祉センターの現状と課題
第3回	令和3(2021)年7月19日	障害者福祉センターに求められる機能について
第4回	令和3(2021)年8月17日	障害者福祉センターあり方検討委員会報告書 中間のまとめ(案)について
	令和3(2021)年9月16日から同月30日まで	パブリックコメント
第5回	令和3(2021)年10月28日	障害者福祉センターあり方検討委員会報告書(案)について
	令和3(2021)年11月22日	市長へ答申

## 令和3年度事業の進捗（健康課）

### 1 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

#### (1) 新型コロナウイルスワクチン1・2回目接種について

令和3年5月から集団接種及び市内約80医療機関での個別接種を実施してきた結果、令和4年2月末時点で接種対象市民の約87%の方が2回目接種を完了したところである。現在も、未だ1回目接種が完了していない市民の方への接種は、集団接種、個別接種で引き続き実施している。

#### (2) 新型コロナウイルスワクチン3回目接種について

国の通知等に基づき、令和4年1月から2回目接種を完了した18歳以上を対象に、2回目接種完了から6か月の間隔を空けて追加接種（3回目接種）を開始。集団接種の他、市内約80医療機関で接種を実施している。3回目接種は1・2回目接種に用いたワクチン種類にかかわらず、ファイザー社製ワクチン又はモデルナ社製ワクチンを用いることとされており、3月7日時点での3回目接種率は65歳以上78.8%、18歳以上で37.6%となっている。

#### (3) 小児（5歳～11歳）への新型コロナウイルスワクチン接種について

2月21日、小児（5歳～11歳）への接種が決定されたことにとともに、3月11日から小児科を中心とした医療機関での個別接種と集団接種で開始。12歳以上と異なり、小児については、現在のところ努力義務とはなっていないため、子どもへのワクチン接種のメリット（発症予防等）とデメリット（副反応等）を本人と保護者が理解し、ワクチンを接種か検討してもらえるよう、国が示すワクチン接種の効果や副反応に関する情報を適切に提供するとともに、アナフィラキシー等の急を要する副反応が発生した場合の救急受け入れについて、市と武蔵野市医師会は武蔵野赤十字病院と協定を締結し、希望する子どもに安全で確実な接種を行う体制を整えている。

### 2 生きることの支援拡充について（自殺対策）

平成28年の自殺対策基本法の改正に伴い、平成31年3月に「武蔵野市自殺総合対策計画」を策定し、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」ことを基本理念に、地域と連携・協働のもとに生きることの支援を推進している。武蔵野市の“自殺者の現況”と“計画の進捗”は、別紙『武蔵野市自殺総合対策計画（2019～2024年）の進捗状況について』のとおりである。

### 3 保健センター増築及び複合施設整備基本計画（素案）について

昭和 62 年の開設から 34 年が経過する保健センターは、排水管からの漏水や空調設備の不具合など施設設備の老朽化が顕著となっている。令和 2 年度に施設・設備の劣化状況調査を行った結果、特に「給排水設備の早急な全面的改修が必要」という調査結果となったため、施設改修を計画する必要がある。なお、34 年間で様々な事業が保健センターで新たに展開されてきたことに加え、新型コロナウイルス感染症等の発生に伴い役割・機能もさらに拡大したため、施設面積に不足が生じ、事業を進めるうえで支障をきたしている状況である。

保健センターにおいて、健康増進・母子保健事業、各種検診、感染症対策等の保健サービスを持続的に提供するとともに、新型感染症や防災・災害時医療への対応など機能強化を図るため、保健センターの増築及び大規模改修を行う。また、保健センターが担う母子保健事業との親和性が高い子ども子育て支援施設を複合化した保健・子ども子育て支援複合施設の整備を検討する。

計画（素案）の概要については、別紙『武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備基本計画（素案）【概要版】』のとおりである。

#### スケジュール

令和 4 年度：基本計画策定、基本設計着手

令和 5 年度から令和 9 年度まで（予定）：実施設計、基礎等撤去工事、増築工事  
大規模改修工事



## 武蔵野市自殺総合対策計画（2019～2024年）の進捗状況について

### 1. 武蔵野市の自殺者の現況

本市の令和3年の自殺者数は11人で、前年比21人減、過去5年間で最も少ない人数となった（平成29年28人、平成30年28人、令和元年12人、令和2年32人）。

令和3年：月別自殺者数（暫定値）

	自殺者数（人）												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全国	1,746	1,689	2,001	1,847	1,852	1,829	1,687	1,674	1,598	1,590	1,541	1,565	20,619
東京都	168	169	154	101	70	144	58	70	70	51	69	172	1,296
武蔵野市	0	3	0	2	1	2	0	0	0	0	2	1	11

【出典】厚生労働省自殺対策推進室：自殺の統計：地域における自殺の基礎資料（※発見日・住居地）

### ※国の状況

令和3年の全国の自殺者数（暫定値）が20,619人となり、減少に転じた（平成29年：21,321人、平成30年：20,840人、令和元年：20,169人、令和2年：21,081人）。

### 2. 計画の進捗状況

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、こころの健康づくり庁内連携会議を延期し、各課に対して、計画に係る各課事業の取組状況及び新型コロナウイルス感染症の影響による変更点等の調査を実施、見守り・孤立防止ネットワーク連絡協議会（書面開催）にて報告を行った。今後、市ホームページにおいて「生きることの支援」に関する情報として集約化を図り、各課事業に係る相談窓口を周知する。

#### <施策ごとの主な事業の進捗状況（抜粋）>

#### ● 自殺対策を支える人材の育成

職員向け研修として、令和2年度は2月に「こころといのちの基礎研修」を開催し、64名の参加があった。令和3年度は今月末の11月29日にオンラインにて同研修を開催予定。また、市民向け講座として、『コロナ禍での自殺者増加の背景について～私たち住民にもできること～』というテーマで、NPO 自殺対策支援センターライフリンクの職員お二人をお迎えして開催した講座をWEBで動画配信した（9月29日～10月31日）。

#### ● 相談支援事業の充実

（市民こころの健康支援事業（市民こころの健康相談室）の状況）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、メンタルヘルスの悩みを抱える市民の増加が予想されたため、令和2年5月26日より毎週火曜日を追加実施しており、件数は増加。令和元年度は162件、令和2年度は262件、令和3年度上半期（4～9月）は101件（うちコロナ関連の件数は10件）

※他、母子、教育、高齢関連の相談事業等においてもコロナ対策を実施したうえで相談体制を整えている。通常の相談に加え、コロナ関連の相談も入ってきている。

#### ● 生きやすさを育み寄り添う支援

市民課の協力を得て死亡届を提出された方にグリーフケアの支援に関する情報提供を実施している。

#### ● 市民への周知・啓発

市ホームページ上の自殺対策関連の情報を整理・拡充し、リニューアル更新を図った。

